

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校)

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する、伝統を重んじ、活力に満ちた進学校
--------	--

重点目標	1 高い志を育成し、第一志望の進路を実現させるため、学力向上に向けた組織的な取組を実践する。 2 本校の特色や魅力を効果的に広報するとともに、県内小中学生と積極的な交流を図る。 3 伝統に培われた教育活動全般(学業・部活動・学校行事)を通じて、厚みある人間力をもったリーダーに育てる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	<p>○これまでの熊高教育の良さを受け継ぎながら、単位制の長所を着実に生かし、次期学習指導要領への対応や大学入試改革を見据えた教育活動に取り組む必要がある。</p> <p>○単位制の完成年度となった平成30年度の進学実績は国公立大学合格者が121名(現役62名)など、3年間を見通した進学指導が大きな成果をあげている。第2期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定などを有効に活用しながら生徒の高い志を更に育成する必要がある。</p>	○生徒の主体的な学習活動を引き出す授業の実践及び教員の指導力の向上	①単位制のメリットを生かし、きめ細かな学習ガイダンスを行うことにより、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②生徒が主体的に考え参加する授業を展開し、生徒の学習意欲を高める。 ③授業公開期間における教員相互の授業見学、教員研修会を充実させる。	①平日に年次+1時間以上学習する生徒が各年次生全体の7割を超えたか(早朝、放課後含む)。 ②「生徒による授業アンケート」等で授業中に発言・質問をする生徒の割合が増えたか。 ③他の授業を見学した教員の割合が増えたか。研修会を実施したか。	生徒の授業時の主体的学習姿勢及び教員の指導力向上については評価できる。生徒の授業外の学習時間の状況はやや改善した。 ①1年 52.0→24.8 2年 8.5→13.3 3年 18.8→71.3(%) (5月→12月) ②1年 58.6→60.7 2年 46.1→54.6 3年 47.9→53.9(%) (昨年度と比較) ③教員相互の授業見学実施期間 H30年3回40日間、H31年3回41日間
		○単位制や様々な指定事業を活用した生徒の高い志の育成及び第一志望を実現させる進路指導の充実	①講演会・年次集会、キャリア教育等を通じて高い志を育成し、3年間を見通した組織的な取組により「最後まであきらめさせない」指導を実践する。 ②SSH事業等の指定事業を有効に活用し質の高い学びの場を多く設定することにより、生徒の学習意欲を高める。	①現役合格者数が国公立大学70名、うち難関国立大学10名を超えたか。 ②事業参加生徒の意識、意欲について、該当するアンケート項目の肯定的意見の割合が昨年度より上昇したか。	
2	<p>○ホームページにおいて「赤薨」、「匂熊」を中心に教育活動の様子を発信し、総アクセス件数は約80,000件超であった。多様な情報ネットワークを利用し本校の良さを積極的にPRする必要がある。また、部活動について最新情報の更新頻度を高める。</p> <p>○保護者や小学校・中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高めるとともに、本校で学びたいと強く思う中学生を増やす。</p>	○積極的かつ効果的な広報活動	①最新の学校情報を迅速にHPに掲載するとともに、部活動の更新を含めた内容の充実を図る。 ②携帯メール一斉送信を有効活用し、必要な情報が確実に届くようにする。 ③マスコミ等へ本校の取組を積極的に情報提供する。	①ホームページの総アクセス件数が10万件を超えたか。 ②携帯メール一斉送信により必要な情報を随時送信したか。 ③マスコミ等で何件本校が取り上げられたか。	①ホームページの総アクセス件数は17万3千件と、目標を大幅に更新した。ただし台風などによる授業繰り下げ等で閲覧件数が増えた側面もあった。 ②月1回以上計20回一斉送信。 ③朝日新聞「青春スクロール」連載10回(予定)、その他ラグビー関連記事等多数。 ④新たに「埼玉県子供70万人体験事業」参加、バレーボール部が石原小学校と連携、音楽部、吹奏楽部、応援団等も例年通り交流した。小中学校への学習ボランティアも継続した。 ⑤第1~3回説明会 594→642組 中学1・2年 30→50組 部活動体験 85→67名
		○地域社会との連携推進	①ボランティアを含め、地域行事への参加・協力や小中学校との連携をさらに推進する。 ②学校説明会及び中学生対象の部活動体験を複数回実施し、生徒同士の交流を図る。	①昨年度以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。 ②学校説明会、部活動体験等に参加する中学生やその保護者が昨年度より増加したか。	
3	<p>○「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」の校風が学校生活に活力を与え人間力の形成と向上につながっているが、真に自立した「厚みのあるリーダー」としての生徒の育成という点において、まだ取組の余地がある。</p>	○「学力」「体力」「良識」の調和のとれた、将来、日本の社会をリードする生徒の育成	①「学業・部活動・学校行事の鼎立」を目指し、学業を第一義に、さらに部活動や学校行事の充実に取り組む。 ②社会で活躍する人材を招き、「真のリーダーとは何か」を考えさせる。 ③早朝学習及び放課後の図書館開館延長や教室開放を活用した学習を生徒に強く推奨し、「学ぶ集団づくり」を進める。	①生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。部活動に加入する生徒の割合が増えたか。 ②事後の感想やアンケート結果等で、社会で貢献しようとする志を持つ生徒が増えたか。 ③放課後に図書館や教室で学習する生徒の数が増えたか。	生徒が「学業」「部活動」「学校行事」の熊高3本の矢に概ねよく取り組んでいた。 ①行事の主体的取組は伸びしろがあり、委員会活動の量的、質的な充実や工夫が望まれる。部活動加入率は95.5→99.3% ②「生き生き仕事人」アンケートで、「高校時代に何をすべきかわかった、将来を考えるきっかけとなった」と回答した生徒94→96% ③放課後の図書館利用者数平均は約2割で例年と変動はなかった。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和2年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・学習習慣の定着に向けた指導を熱心に行っている。調査から、授業外の学習時間の状況が改善するなどし、成果も上がっている。その結果と、進路実績との関連付けを意識的に生徒や保護者へ示していくことにより、相乗効果をあげてほしい。</p> <p>・生徒の進路指導にOBの積極的な活用を進めており、評価できる。また、「進路の手引き」によりOBの体験を紙媒体で伝えるだけでなく、体験談をじかに伝える場も設けている。高校生の進路を取り巻く環境の変化は大きく、進学校であっても多様かつ長期的視野に立った進路指導が必要な時代となっている。そのような指導に対応するためにも、さらなるキャリア教育の工夫と充実をしてほしい。</p>	
<p>・これまでの歴史や伝統だけでなく、新しい創造的な活動を通して、地域社会との連携、貢献の面で目覚ましい成果を上げている。</p> <p>・検討してほしいのはやはり情報発信の仕方である。学校だけでなく生徒会などの組織からも、また、写真だけでなく実際の教育活動の動画など、多角的に情報発信してほしい。</p> <p>・中学生に対する広報活動のほか、小学生も大切である。科学体験などをやっているのは、良い試みである。熊谷高校のアイデンティティをより効果的に広報し、中学生の減少に対応してほしい。</p>	
<p>・生徒同士、仲間同士で勉強する場が校内にあるのでお互いに高め合ってほしい。</p> <p>・定時制生徒との交流で全日制の生徒の視野が広がるのではないかな。</p> <p>・「将来のリーダー」を育てる「自由と自治」であってほしい。</p> <p>・是非、バランスの取れた、大学・大学院の後の人生にとってためになる学校生活を送ることができる学校ということをうまく中学校・家庭・地域に伝えていってほしい。</p>	